

## シーニックバイウェイ北海道の挑戦

# シーニックバイウェイ北海道における活動展開(1)



地域景勝箇所でのカフェ設置による景観資源活用

平成17年5月にシーニックバイウェイ北海道のルートの指定が行われ、6月には各ルートの取り組みを集中活動月間として展開しています。このように今年度から本格的にスタートしているシーニックバイウェイ北海道について、

今回指定された各ルートの概要と指定に至るまでの活動や計画づくりのプロセスについて紹介します。

美しい湖と秀峰、火山に出逢える支笏洞爺二セコルート

支笏洞爺国立公園と二セコ積丹小樽国定公園の2つの国立・国定公園を走る支笏洞爺二セコルートは、美しい湖と秀峰、火山に出逢えるルートです。距離が長く、エリアが広いため、ウエルカム北海道エリア、洞爺湖エリア、二セコ羊蹄エリアの3つのエリアで構成されています。ウエルカム北海道エリアは、新千歳空港に降り立った来訪者が多様な自然、清らかな水、広がりのある農地とおいしい食、彩り美しい庭のある街並みなどに巡り会つことができ、北海道の魅力をはじめに体感できる、「ここからはじまる北海道」ルートです。

四季折々に美しい表情を見せる洞爺湖と今なお噴煙を上げる昭和新山。洞爺湖エリアは美しい洞爺湖と火山を体感できる屋根のない博物館、洞爺湖と火山がおりなす「ユニコーンシアムルート」です。

二セコ羊蹄エリアは羊蹄山のある美しく季節感のある風景と尻別川をはじめとした二セコの自然を体験することにより、訪れた人に感動を与える「羊蹄と二セコの自然が与える感動のみち」ルートです。

四季を彩る花人街道、大雪・富良野ルート

大雪山・十勝岳連峰の裾野と山懐を通る大雪・富良野ルートは、パッチワークのように美しい丘陵田園やラベンダーなどの花々に彩られ、映画やドラマ、CMの舞台となっています。シヤガイモや麦など良質の農産物にも恵まれるほか、十勝岳温泉や吹上温泉など数多くの温泉がわき、ゆったりとした時の流れとともに心が癒やされる環境があります。

ロマンティックヒーリング・風を感じて走る道、東オホーツクシーニックバイウェイ

知床、阿寒の2つの国立公園を有する東オホーツクシーニックバイウェイルートは、広大な畑地景観、野趣あふれる山岳、ハクチョウが飛来する湖沼、原生花園、豊富な味覚、明瞭な四季など北海道観光のよさが凝縮されている地域です。また、わが国唯一の流水地帯でもあり、人々の心を潤し、感動を与えてくれるあこがれの地として道内外から多くの観光客が訪れています。

この他、北海道内有数の古い歴史と文化を持つ「函館・大沼・噴火湾ルート」、2つの国立公園と野生生物が物語る豊かな自然のある「釧路湿原・阿寒・摩周ルート」の2つが候補ルートとして指定されています。

合意形成に時間をかけて

これらの指定されたルートのうち、支笏洞爺二セコルートと大雪・富良野ルートでは、平成15年度から16年度にかけてモデルルートとしてさまざまな取り組みを行いました。モデルルートでは、制度の検討委員会がルート（地理的範囲）を指定し、地元説明会、ホームページ・新聞報道等を通じて活動団体の募集を行いました。まず最初の活動は、各団体がどのような活動や考え方をしているかという意見交換です。その後、議論を円滑に行つたため、地域性を考慮し、議論内容に合わせた形態で各種会議を開催しました。これらの会議は、平成17年度も継続して開催されています。

会議は目的・地域性に合わせて

参加活動団体が集まり、ルートにおける活動の説明、活動団体間の情報交換などを「ワークショップ」として開催しました。この中で、以前からまちづくりに関わってきた団体から、これまでワークショップ等の議論を行ってきた



流水(東オホーツクシーニックバイウェイ)



中富良野ラベンダー畑(大雪・富良野ルート)



支笏湖畔(支笏洞爺二セコルート)

いるため、議論ばかりをするのではなく、実際に自分たちのできる活動を行う場が必要」との声があり、このため専門的な議論を行う「分科会」を設置、計画・活動を推進する形に発展していきました。また、千歳(二セコ)ルート(現在の支笏洞爺二セコルート)は、地域住民の生活拠点間の時間距離が遠く、議論・活動を行うために全員が一堂に会することが困難であったため、「エリア連絡会」という生活拠点ごとの集まりを開催しました。このように、それぞれの会議は目的や地域性などに考慮して開催され、団体間の連携意識を向上させるものになりました。

モデルルートとしての最後の活動は、ルート運営活動計画(ルートにおける資源、目標、活動スケジュールを記したもののルートの指定を受けるために必要な文書)を作成することでした。この計画を提出するまでに、さまざまな会議を開催してきましたが、これにより地域に連携意識が生まれ、また、ルート運営検討の中心となるメンバーが抽出され、最終的には意思決定機関としてルート運営代表者会議が設置され、これが制度にも反映されています。

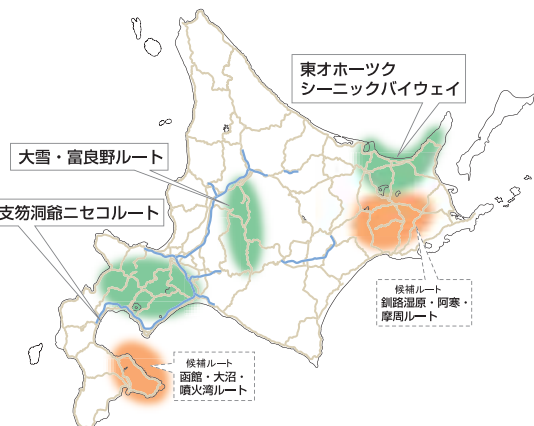
モデルルートでは、活動団体が計画づくり、活動の実施を行いながら、さまざまな課題を話し合いの中で解決していききました。その結果、団体同士、団体と行政の連携活動が実現しました。

このように活動団体同士の合意形成に時間をかけることで、その後の運営がスムーズに行くという成果がありました。

具体的な実践活動としては、花を中心とした植栽活動や看板撤去等による景観づくり、アウトドアやグリーンツーリズム等の体験型



さまざまな検討が各地で行われた



観光、写真やホームページ等を通じた情報発信など、多種多様な団体が集まり、通常では考えられない幅広いさまざまな活動を実施することができました。

ルート(エリア)ごとに思い描く共通のランドマークなど、これらのルート独自の要因もあつたかと思いますが、今後、他の地域でシーニックバイウェイ活動が行われる場合、参考になる部分は参考とし、地域性を考えた取り組みを行うていくことが必要と考えます。

#### 自主的な活動のために

現在、シーニックバイウェイ北海道指定地域では、活動を継続していくために、財源の確保(会費、寄付・助成、自主事業、受託事業)、人材の発掘・育成を検討しています。

また、詳細の確認を各種会議で行つたため、活動実施までに時間がかかってしまいます。そのため、プロジェクトごとに幹事をつくり、大筋の話し合いは全体の会議で行い、詳細の決定については幹事が行うようにしました。合意形成と意思決定を迅速に行つたための仕組みを作ることで、作業効率があがり、タイムリーな活動を行うことができました。

活動には役割・責任などが伴いますが、その中で楽しく活動することを考え、組織を運営していくことを各ルートでは検討しています。

シーニックバイウェイ北海道では、地域の活動団体が活動計画づくり・運営計画の検討を行い、住民主体の活動を推進しています。それぞれの活動団体は、活動計画を「できることから」「生活に近いことから」「実施していくことで、持続的に活動ができる」というように考えているようです。

地域の活動団体が中心となり活動を継続的に推進することで、地域アイデンティティや地域ブランド力の向上が図られます。また、景観資源をイメージ戦略・観光ツールとして利用することで、観光客の誘致・増加も期待できると思えます。

#### (社)北海道開発技術センター

企画部地域政策研究室 田中 寿明

シーニックバイウェイ北海道ホームページ

<http://www.scenicbyway.jp/>